

人で30人分の夕食を試験的に作り、希望者が食べるお試しクッキングとCOMMONミール、建設・緑化・備品・暮らし方・ペット・省エネ・広報など11の委員会活動など様々な活動を行いつつ、自立と共同の暮らしのイメージを具体化することに取り組んでいます。半年前までは見ず知らずの人々が、誰かが作った食事を笑いながら食べている、ジェンダー学習会や、光ファイバーの検討、ガーデニングの研究、それぞれが自分のやってみたいことを企画し新しい刺激がみんなを生き生きさせる。話し合いがまとまらない時もあるし、お金の心配もある。でも、空間と時間、エネルギー、みんなの知恵を重ね合わせて、豊かで経済的な協働が生きる暮らしが少しずつ皆さんによって見えて来ています。

こうしたプロセスがコレクティブ人を育てることを私達も実感しながら、現在は住まい手の活動、ネットワークづくりの支援をしています。

千葉集会 / 第12分科会 /

## 地域住民とともに、誇りをもって働きたい

～タクシー労働者が自ら出資して「ワーカーズコープタクシー」を設立～  
廣瀬早美  
(ワーカーズコープタクシー福岡代表取締役)

### 1. 事業の概要

(1) 設立メンバーの参加条件は、目交総連の組合員であること 所属単組が推薦した人 一人100万円を拠出(30万円は退職時に返済、70万円は十年据え置き後、2年目から4年間で分割返済)。

参加者以外からの拠出金は13人から1,370万円集まった。

(2) 当面、志免営業所1カ所、タクシー車両15台43人体制(予定年商1億6千万円)で出発し、早急に前原営業所(5台9人体制)を申請する予定。

3年以内に50台120人体制(目標年商8億円)を目指す。

(3) 7月23日に営業許可申請をし、10月22日にヒアリングと事業主試験が終わり、11月末に許可される予定。

許可が下りれば、12月15日からタクシー事業を開始。介護タクシーは、12月10日迄に申請し1月から始める。

その他、損害保険代理店業務(9月10日から契約21件)、生命保険募集業務(10月22日から契約2件)は現在営業を始めてい

る。

運転代行業“車検代行業、居宅介護サービス事業、葬儀屋などの事業も考えている。

#### (4) 事業立ち上げまでに苦労したこと

事業遂行能力を審査する資産は「自己資金」でなければいけない。

申請者が個人の場合は個人の資産を、法人登記予定者は、発起人全員の通帳を精査し、借入た事実が判明すれば許可しない。ただし、既存の事業者が申請した場合は会社の残高証明書で良い。

事業を始める半年前までに、事業を開始前からの資金と開始後2カ月間のでからの人件費(法定福利費を含む)を申請前からヒアリング迄必ず預金残高が必要経費を上回っていること。

組合員の中に運行管理者の資格を持った人がいないため、18人が国家試験(合格率61%)を受験し、15人が合格した。

「事業所の入り口の幅員が6メートル以上あり、横断歩道が無く、都市計画法、農地法、消防法に触れないこと」の決まりがあって、組合員の知り合いの土地を借りるのがすべて駄目になった。

100万円を拠出して民主的に事業を運営するのは、道路運送法で名義貸しに当たると、まわりの事業者から運輸局に苦情が殺到した。

運輸局の担当専門官は、「きちんとした責任ある組織体制が必要、特に運行管理者や整備責任者、苦情係、指導・教育係の権限が大切」と延べ、「どうしても上下関係をつくらぬというのなら許可は難しい」と指導された。

## 2. なぜ今、「労働者協同組合」か

(1)「人並みな労働条件」を目指して、経営者には賃率の引き上げを要求し、行政には、「多すぎるタクシーを減らせ」と長年運動してきたが、出来高払いの歩合給では、需要の減少のほうが大きくて、下りのエスカレーターに乗って登っているようなもの。

(2) 2002年2月1日に需給調整規制(タクシーの台数規制)が撤廃され、市場競争が始まった。

タクシー事業は人件費が80%を超える労働集約型産業のため、生き残りに一番簡単な方法は「人件費の削減」というように、一番弱いものに蹴寄せがくる。

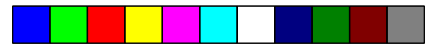
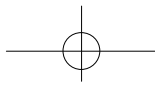
労働組合の力が強いところでは、身売り・倒産・廃業の危機にきている。

法律が変わる前の認可事業だった頃は、簡単に事業を止めることが出来なかったが、法律が変わった今は「事業の廃業は事後届出」になった。このことは、会社の言うことを聞かなければ職場が無くなることもある。

現に、大阪で第一交通による一方的な賃下げに反対している二つの職場がつぶされようとしている。

(3) 自交総連は、会社に対しては「提案型」の要求している。乗務員のことを考える真面目な経営者は、組合と一緒に介護タクシーを立ち上げ、市や町に出向き、タクシーの需要を開拓している会社も地方や郡部には多くある。そんな会社は乗務員の運転マナーや接客マナー等を大切に考えている。

福岡市や北九州市など、いわゆる流し営業が主体の所では、運収を多く稼ぐ乗務員が優遇されているため、駐・停車禁止区域で



待機したり、Uターン禁止や割り込みなど何でもの乗務員が増える環境にある。

違反をしなければ椅子とりゲームのような待機場所に待機できない。親切が売り物の乗務員が運転しているタクシーに乗ろうとしても、6000台のタクシーでは選ぶことが出来ない。そんな環境の中で長くタクシー乗務員をしていると「だんだん自分がずらくなっていく、また、そうしなければ生活できる賃金が確保できないし、会社からも低運収者として厳しく指導されることになる。

毎日が「運収」のノルマに追い掛けられる弊害が、交通マナーの低下や近距離客に対して「無愛想」な乗務員を育てている。

タクシー利用者懇談会などで、「近距離の時は、駅前に待機しているタクシーには乗らない。走っているタクシーを止めて乗ることにしている」などの意見を聞くと「こんな産業に未来はあるのか」と不安になる。

利用者や市民からの苦情や要望を真摯に受けとめ、自交総連の組合員は運動で評価されるだけでなく、仕事でも「さすが自交総連の組合員さんはちがう」と言われるようになろうと運動している。

(4) 自分たちが変わりたいという組合員60人が集まってホームヘルパー2級を受講し、非番や公休日にボランティア輸送やデイサービスの送り迎えの運転手をしている。

非番や公休の時だけでなく、「仕事でも介護タクシーがしたい」という組合員の要求にたいして会社は、「儲かるという保障がないと出来ない」と重い腰を持ち上げようとはしない。

会社が協力して介護タクシーを始めたところでは、介護タクシーをしていると「仕事

に誇りがもてた。学ぶことが楽しい」と語り、髭をのばしていた人が髭を剃ったり煙草を止めたり、「質の高い乗務員になろう」という目標が職場を変えている。

利用者や市民の「声」が営業政策に反映できる会社を自分たちの手で創りたい。

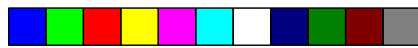
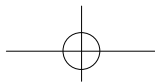
- ・心のこもった介護タクシーをしたい
  - ・運収のノルマを強要する口うるさい管理職のいない会社で働きたい
  - ・時間がかかる効率の悪い仕事をする人にも一定の保障があっても良いのでは
  - ・事業化で組合員を増やす
  - ・ロンドンタクシーのようになりたい
  - ・仕事で自分の価値を高めたい
  - ・地域に喜ばれる会社にしたい
  - ・誇りをもってタクシードライバーと答えたい
  - ・労働する喜びを感じる職場にしたい
- などの要求を実現させるため組合で議論し、パイオニア委員会(事業化調査研究機職を設置。

### 3. パイオニア委員会で矛盾点を議論

(1) 自交総連の組織内9カ所(山形2、山口3、大分3、福岡1)に、組合が管理している「自主経営会社」がある。

自主経営の任務として

- ・自主経営は、労働者・労働組合目らが管理・運営する共同の事業体としての機能を生かし、旨交労働者の生活と権利を守り、経済的・社会的地位の向上をはかるための役割を果たす。
- ・自主経営は、地域住民及び労働者の権利を守る運動の拠点として、地域社会の発展に貢献でき得る事業の民主的発展のために積極的に寄与する。



・自主経営は、地域の労働組合・民主団体と連帯し、労働者・国民の利益を守る国民的運動、共同のとりくみの先頭に立って奮闘する任務を担う。

(2) 最初は、仕事も運動も順調にいくが、長年経つと働く人が入れ代わり、雇う人、雇われる人、管理する人、管理される人という形が出来てくる。

民主的な運営をさせにくくしかる一番の要因は保証人問題。一部の人たちの土地や財産が長年担保に入っているため、経営者として問題があっても体制が変えられない。個人保証で勝手に借金して賃金を補填するなど、全体の合意を守らなくなることが起きやすい。

乗務員が不足しているときに、働き方問題がある乗務員を組合の反対を無視して雇用する。その時に、自主経営会社としての任務の説明さえしないため、後で問題が起きる。

(3) ワーカーズコープタクシーでは、個人保証する人の保証内容を皆が連帯保証人(内部文書)になることを合意している。このことは、勝手に借りた借金は自己責任ということ。

「皆で話し合い、皆で決め、皆で責任を果たす」ことを守っていくことを決めた。

今のメンバーだけなら問題はないが、今後新しく仲間に加わる人たちにも、このことが徹底されるかが心配。

株式会社や有限会社でなく「共同労働・共同責任」という形態の会社が出来れば、自主経営の弱点が改善される。

(4) 出資金(拠出金)の額に関係なく権利は

平等。今後の参加者のことも考えてルール作りが課題。

4. 新規許可申請、法人設立・登記など手続きはすべて自分の手で

ホームヘルパー2級資格者は44人中39人、運行管理者は12人、その他救急救命講習済、保険募集資格者、ケアマネージャー、一級ヘルパー、福祉環境コーディネーター、勤労者通信大学、海外の交通事情調査、整備士免許、旅行代理店・保険代理店資格、旅行代理店資格、自主経営視察、労働者協同組合視察、経理など、みんなが学習することを推進する。

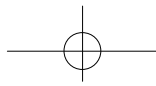
陸運支局には申請に必要なことを習いに何度も足を運び、公証役場には定款の作成で3度、登記所にも3回、税務署2回など経験がない者がみよう見真似で作成した文章が一回でパスするはずがなく、数多く足を運ぶことで会社を立ち上げた。

タクシー事業許可は11月末までに不備がなければ許可される予定。訪問介護サービス事業は、12月10日までの申請で1月10日から。

5. 非番や公休日に集まり、移送介護の勉強会

ホームヘルパー2級の資格を持っているからといっても、実際に介護ができる技術には程遠く、経験者を中心に皆で技術を高め合う努力をしている。

・目隠しでタクシーに乗ってみると(出発します、曲がります、止まります、揺れます)など声かけやブレーキのかけ方に神経をつかうことの大切さを身を持って覚えている。  
・本番でミスを犯すことが無いように、頭で



なく座で覚えるまで練習する。

・介護の勉強をすれば、今まで接客マナーに自信を持っていた人も「井のなかの蛙」だったことを認識し、自分を高める努力する。

### 6. いつまでもチャレンジャーでいたい=これからのこと(夢)

「自分の息子や娘たちにもタクシードライバーになってほしい」「収入は税務署が恐いから教えられない」とロンドンのタクシードライバーが語った言葉、イタリアのローマでは「タクシードライバーはその都市の顔」と認められる。

同じ産業なのに、日本のタクシー労働者は、「タクシー労働者と胸を張って言えない」「あまりにも少ないから恥ずかしくて収入が言えない」「タクシー労働者だとお嫁さんが来ない」など、わたしたちの「ひがみ」かもしれませんが、誇りを持って働いている気持ちになりません。

個人個人に仕事の仕方では、「親切な運転手さんで良かった」とお礼を言われていても、そのことは、他の運転手が当たり前接客サービスさえできていないことの裏返し、タクシー労働者の多数が何時でも利用者や市民、地域に愛されるタクシーに近

付くことが、「誇りを持って働ける産業」への第一歩。

それぞれの労働者が、自分の体力や能力に応じて働ける職場。金儲けのための介護タクシーではなく、「ほんまもん」の介護タクシーの実現。接客マナー、運転マナーなど、仕事をしながら自交総連の組合員の「働き方」の評価を上げる。

一度乗って頂いたお客さんが、2度、3度乗ってもらえる「働き方」。今日の運収より明日あさっての運収につながるサービスを心がける。

情報を共有してみんなで学習し、事業参加者全員が自分の問題として営業に参加する。

法律違反を繰り返す悪質会社で努力するより、労働者が会社から自立することで、法律を守らないで労働者ばかりいじめる会社には労働者が居なくなる、「良化が悪化を駆逐するシステム」を『協同労働』の法制化をめざす運動とともにチャレンジしたい。



ワーカーズコープタクシー福岡は、11月末に許可が下り、12月14日に開業式が行われました。

